

## IV.必要諸室の検討

### IV-1.前提条件

・本計画における前提条件を以下に示す。

#### 1.利用状況(現施設)の把握

##### ①一会葬当たりの会葬者数の把握

- ・ 葬祭業者アンケートの結果により、以下の数値とする。
- ・ 火葬に同行する会葬者数： 30人/一会葬当たり
- ・ 拾骨に同行する会葬者数： 30人/一会葬当たり

##### ②僧侶控室、業者控室(運転手など)の検討

- ・ 僧侶控室は、葬祭業者アンケートによると僧侶は自家用車にて来場し、「見送り」の終了後は、退場することが一般的との回答結果である。従って、僧侶控室は設けない。
- ・ 業者控室は、設置を想定する。

#### 2.施設の基本的な考え方

##### ① 斎場の設置

- ・ 民間における式場機能が、市域内に充実していることから、設置しない。

##### ② 多目的室の設置

- ・ 昨今増加する家族葬及び直葬に備えて、家族のみによるお別れや略式な葬儀などが行なえる多目的室を設置する。また、葬儀を手配する縁故者が居ないもしくは遠方に居る「独居老人」等が亡くなった場合に備えて、霊安室に隣接して遺体への面会が可能なスペースを設ける。
- ・ このような家族葬や直葬への対応については、今後、施設の運営者及び地元の葬祭業者等を交えて運営の方針を検討する予定である。

##### ③ 待合室の設置

- ・ 敷地が郊外に位置するため、待合室を設ける。
- ・ 待合室は、会葬者グループが個々に占有できるスペースを備える。また、できるだけ規模の縮小化を図る。
- ・ 民間施設において食事をする慣習があるため、本施設では飲食サービスを行わない。
- ・ 但し飲食の持込可否については、今後検討が必要である。

##### ④ 供養塔の設置(残骨灰等の扱いなど)

- ・ 残骨灰は、集塵機からの集灰と共に処理業者に引き渡すことを想定し、敷地内には供養塔の設置はしないものとする。

### IV-2.必要諸室と面積

#### 1.タイムテーブルの検討

- ・ 集中日のタイムテーブルを作成し、施設規模、必要諸室との整合性を図る。(表-IV-①②参照)
- ・ タイムテーブルは、集中日9件及び10件の場合を検討する。

#### 2.告別室、拾骨室、待合スペースの規模の検討

##### ①告別室

- ・ 一会葬当たりの会葬者数を30人と想定し、一人当たりの占有面積を $1.5\text{m}^2$ に設定する。
- ・  $30\text{人} \times 1.5\text{m}^2/\text{一人当たり} = 45\text{m}^2$

- ・ 室数は3室とする。

②拾骨室

- ・ 一会葬当たりの会葬者数を30人と想定し、一人当たりの占有面積を1.5㎡に設定する。
- ・  $30人 \times 1.5\text{m}^2 / \text{一人あたり} = 45\text{m}^2$
- ・ 室数は2室とする。

③待合ゾーン

1) 個室+ロビーを設ける場合

- ・ 一会葬当たりの会葬者数を30人と想定し、個室の一人当たりの占有面積を2.0㎡とする。
- ・ 予測火葬件数のピーク時における一日当たり最多件数である9件/日の集中日には、時間の遅延を考慮すると、待合室は4室確保する必要がある。

(表-IV-① タイムテーブル参照)

- ・ 個室:  $30人 \times 2.0\text{m}^2 / \text{一人あたり} \times 4室 = 240\text{m}^2$
- ・ ロビーは、同じく一会葬当たりの会葬者数を30人と想定し、一人当たりの占有面積を1.5㎡に設定する。
- ・ ロビー:  $30人 \times 1.5\text{m}^2 / \text{一人あたり} \times 4組 = 180\text{m}^2$

表-IV-① タイムテーブル(人体炉5基-9件/日の場合)

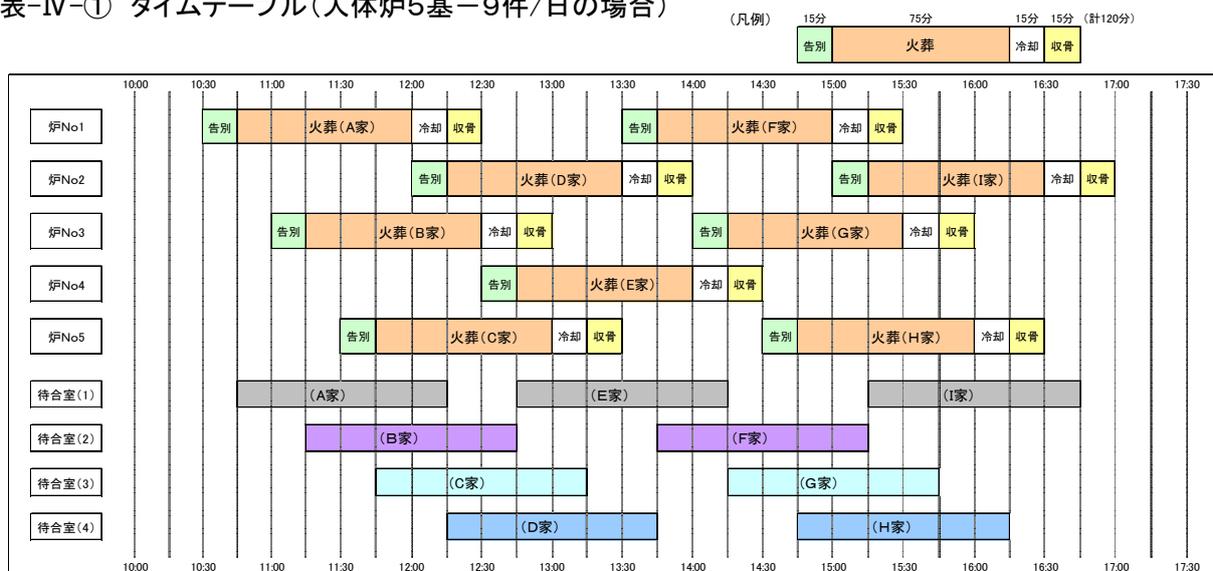


表-IV-② タイムテーブル(人体炉5基-10件/日の場合)

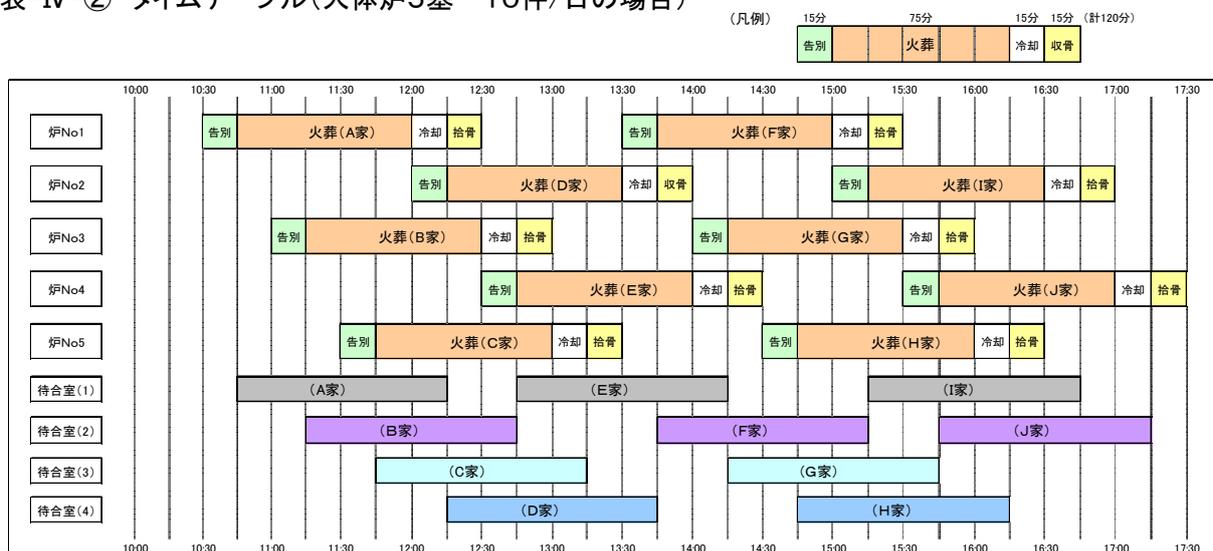


表-IV-③ 計画目標値

	必要諸室	仕様/算定根拠	目標値 (㎡)	指標1 (文献)	指標2 (事例)
エントランス ゾーン	エントランスホール	別途車寄せ、ピロティを設ける	190~210	203	190
会葬ゾーン	告別室	一会葬当たり30人×一人当たり占有面積 1.5㎡×3室	460~550	552	465
	炉前ホール	奥行8mを確保する			
	拾骨前室				
	拾骨室	一会葬当たり30人×一人当たり占有面積 1.5㎡×2室			
	多目的室	直葬及び家族葬による簡略な葬儀対応			
	霊安室				
	通路等				
待合ゾーン	待合ホール		650~830	826	640
	待合個室	一会葬当たり30人×一人当たり占有面積 2.0㎡×4室			
	便所・湯沸室				
	倉庫				
	自販機コーナー				
	通路等				
管理ゾーン	事務室		980 ~1,470	1,470	975
	業者控室				
	炉室 (1F)	人体炉6基+動物炉1基			
	炉機械室 (2F)	高性能集塵機設置スペースの確保			
	制御室				
	職員休憩室				
	残灰処理室				
	台車庫・倉庫				
	電気室	発電機室を含む			
	オイルタンク室				
	機械室	空調機械室、受水槽室等を含む			
	便所・通路等				
延べ面積			2,280~ 3,060	3,051	2,270

注)

- ・指標1(文献)については、「火葬場の建設・維持管理マニュアル」平成16年日本環境祭苑協会による
- ・指標2(事例)については、E市の施設(人体炉5基+動物炉1基)について図上計測した数値による

延べ面積(計画目標値) = 約2,280 ~ 3,060㎡程度